
王子公園再整備基本計画

【王子動物園編】

令和6年3月

神戸市

目次

1	はじめに	1
	(1) 王子動物園の理念・コンセプトと目指すべき方向性.....	1
	(2) 基本計画策定までの経緯	1
2	計画のポイント	2
	(1) 動物収集計画（コレクションプラン）	2
	(2) わかりやすいゾーニング	3
	(3) 新たな展示方法の導入.....	4
3	施設の整備方針	5
	(1) 飼育展示関連施設.....	5
	(2) 来園者の利便性を高める施設整備.....	7
4	王子動物園が目指すべき方向性と具体的な取り組みの方針	10
	(1) 種の保存など、生物多様性保全に貢献する動物園	10
	(2) 動物を通して自然や環境への扉をひらく教育の推進.....	12
	(3) 希少動物の保全や動物福祉の向上に資する調査・研究の推進	13
	(4) 誰もが安全に安心して楽しめる憩いの場の創出.....	14
	(5) 市民・地域・来園者と共に歩み行動する動物園.....	15
5	工程計画	16
6	実現に向けて	19

1 はじめに

(1) 王子動物園の理念・コンセプトと目指すべき方向性

市街地にありながら六甲山系に近い立地特性や景観を最大限に活かしつつ、動物福祉の向上を図ることはもちろん、動物の飼育に注力すると共にその取り組みの成果を生息地の野生動物の保護や生息環境の保全につなげます。

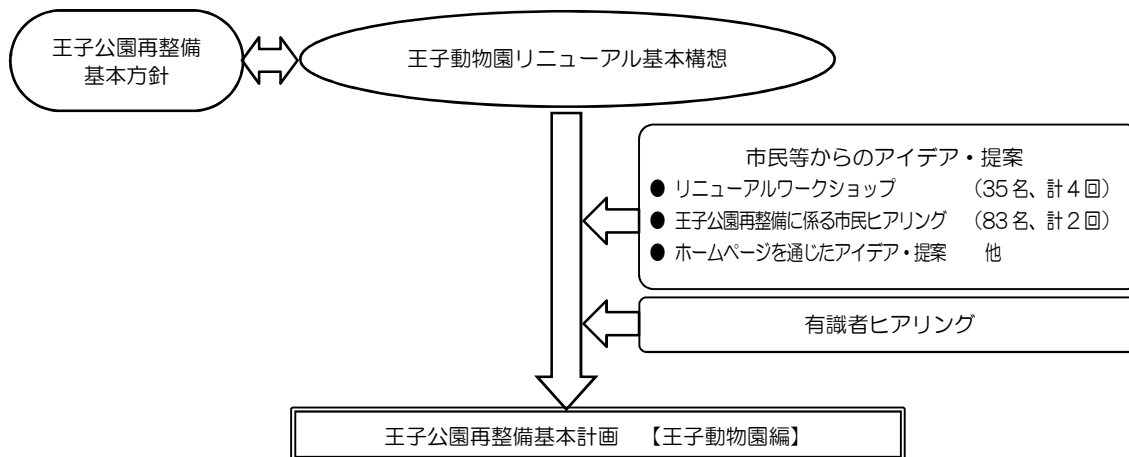
自然に囲まれた中でいきいきと過ごす動物たちの姿を来園者が一日中、ゆっくりと観察し、遊び、憩い、その中で自ずとSDGsに配慮した暮らしに目を向けることができる動物園を目指します。



【理念と5つの目指すべき方向性の概念図】

(2) 基本計画策定までの経緯

基本構想の実現に向けた具体的な取り組みについて、有識者や市民、王子動物園サポーター等様々な主体の参画を得て検討し、策定しました。



2 計画のポイント

(1) 動物収集計画（コレクションプラン）

生物多様性保全に貢献し、将来にわたり持続可能な飼育展示を実現するため、以下の方針のもと、コレクションプランを策定しました。

○動物収集の方針

- ・（公社）日本動物園水族館協会（以下、JAZA）の策定計画（JCP）に準拠
- ・域外保全への貢献、教育的価値、学術的価値、展示効果等を考慮
- ・今後、導入が困難と見込まれる動物は原則、繁殖を行わない
- ・近隣施設との棲み分けも考慮

○繁殖方針

- ・最優先種：種の保存の貢献のため、積極的に繁殖を推進（JCPに準拠または独自の取り組み）
- ・優先種：繁殖を推進（JCPに準拠した計画的な繁殖）
- ・維持種：展示施設内で適正数を維持するための繁殖
- ・調整種：繁殖を行わない（終生飼育）。もしくは譲渡を促進

○新規導入

- ・域外保全に貢献できる海外希少動物、国内希少動物（市内・県内）等を新たに導入し、六甲山系から世界につながる生物多様性の保全教育を推進



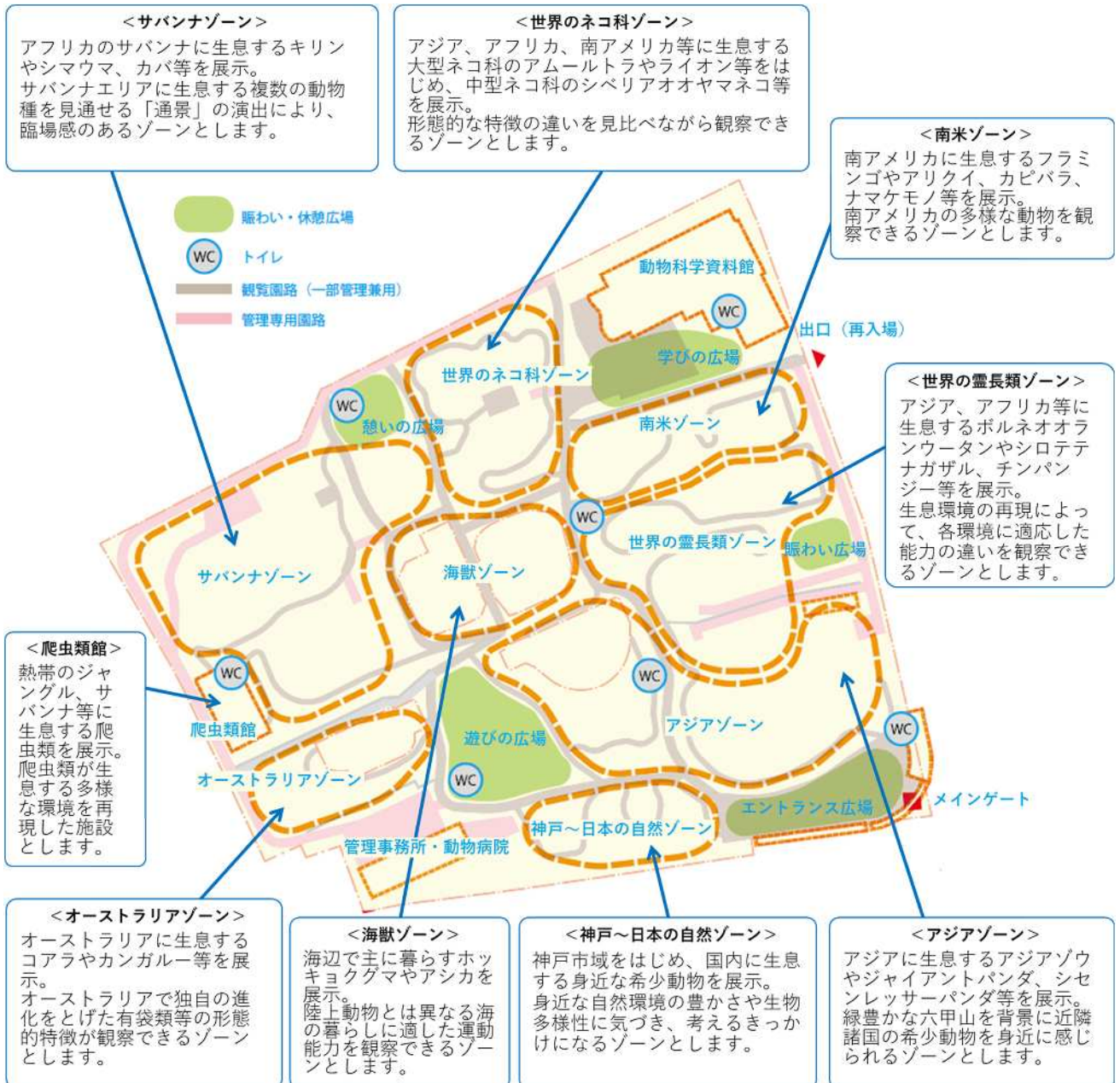
【王子動物園動物収集計画（コレクションプラン）（基本計画策定時）】

繁殖方針 による分類	該当種数 (うち新規導入)	該当種 (新規導入種)
最優先種	8種（2種）	ジャイアントパンダ、コアラ、アジアゾウ、ボルネオオランウータン、アムールトラ、アムールヒョウ、（神戸市内の希少野生動物種、兵庫県内の希少野生動物種）
優先種	15種	キリン、カバ、ユキヒョウ、ジャガー、オオアライグマ、シセンレッサーパンダ、チンパンジー、シロテテナガザル、ニホンリス、スローリス、マヌルネコ、フタユビナマケモノ、ニシアフリカコガタワニ、ヨウスコウワニ、ヒワコンゴウインコ
維持種	56種	ライオン、ホッキョクグマ、フンボルトペンギン、カリフォルニアアシカ、シマウマ、ベニイロフラミンゴ、アカカンガルー、コツメカワウソウ、アビシニアコロブス、カピバラ、アフリカタテガミヤマアラシ、ワオキツネザル、ニッポンツキノワグマ、ベネットアカクビワラビー、フサオマキザル、ブラッサグエノン、ピントロング、ヨザル、コモンマーモセット、エジプトルーセットオオコウモリ、ポリビアリスザル、ボブキャット、シベリアオオヤマネコ、ショウガラゴ、シタツツガ、ヤギ、カイウサギ、モルモット、ロバ、ヒツジ、ラマ、タンチョウ、マナヅル、カンムリシロムク、アカコンゴウインコ、ニジキジ、コバタン、ルリコンゴウインコ、オオハナインコ、シロムネオオハシ、シロフクロウ、ホシハジロ、インドクジャク、ウミネコ、ユリカモメ、ホンドフクロウ、オシドリ、ベニコンゴウインコ、キエリボウシインコ、オジロワシ、ビルマニシキヘビ、ケヅメリクガメ、ニホンイシガメ、グリーンイグアナ、キタインドハコスッポン、インドホシガメ
調整種	46種	ダチョウ、エミュー、ヨーロッパフラミンゴ、フクロテナガザル、エゾヒグマ、カルガモ、アオサギ、チベットヒグマ、インドタテガミヤマアラシ、キンカジュウ、コモンリスザル、アカハナグマ、ウマ（カカバ）、キビタイボウシインコ、パナマボウシインコ、ニシムラサキエボシドリ、カンムリヅル、コガモ、ハッカク、アヒル、ガチョウ、ニワトリ、ホロホロチョウ、カワウ、ゴイサギ、シュバシコウ、オナガガモ、カモ雑種、コブハクチョウ、アカツクシガモ、セキセイインコ、フラミンゴ雑種、オオダルメインコ、ヒョウモンガメ、ニシキマゲクビガメ、アカアシガメ、マレーハコガメ、アンボイナハコガメ、セマルハコガメ、ミナミイシガメ、ヒラセガメ、クサガメ、ホオジロクロガメ、トウブハコガメ、ノコヘリマルガメ、オルナータハコガメ
計	127種	

※コレクションプランは、社会情勢や飼育個体の保全状況等を踏まえ、必要に応じて見直します。

(2) わかりやすいゾーニング

動物が生息する地域と気候風土との関連を理解しやすいよう地域ごとに動物を集約したゾーンや、動物種の分類に着目したゾーンを設定します。また、世界各地を巡りながら各地域に生息する動物を観覧しているように感じられる仕掛け等、ストーリー性のある観覧ルートにします。



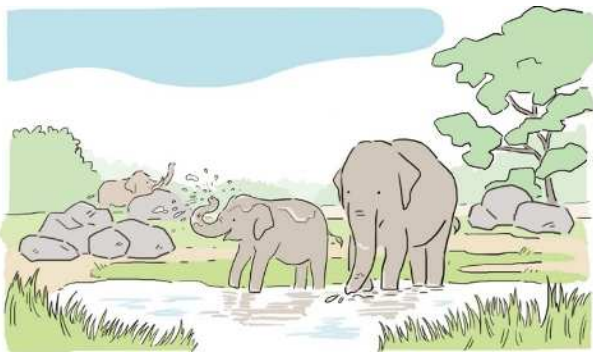
※ゾーニングは、社会情勢や飼育個体の保全状況等を踏まえ、必要に応じて見直します。

(3) 新たな展示方法の導入

動物福祉の視点に立った飼育環境の向上を図るとともに、自然に囲まれた中でいきいきと過ごす動物たちの姿を、来園者が、一日中ゆっくりと観察し、その中で自ずとSDGsに配慮した暮らしに目を向けることができる動物展示を目指します。

① 動物本来のいきいきとした姿を引き出すための展示方法の導入

動物の生息環境を再現し本来の生態や暮らしの様子を観察できる展示や、装置の工夫等により動物本来の能力や行動を引き出す展示等、動物種毎の特性等に応じて、飼育環境の向上を図り、いきいきとした姿を引き出す展示方法を積極的に導入します。



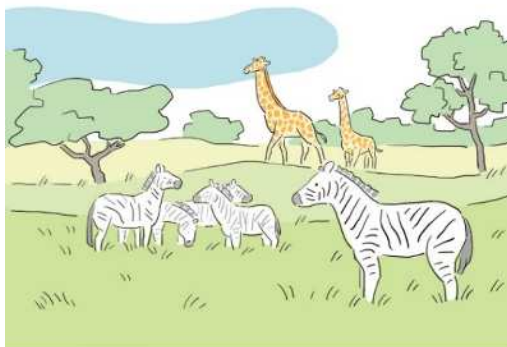
【動物の生息環境を再現する展示のイメージ】



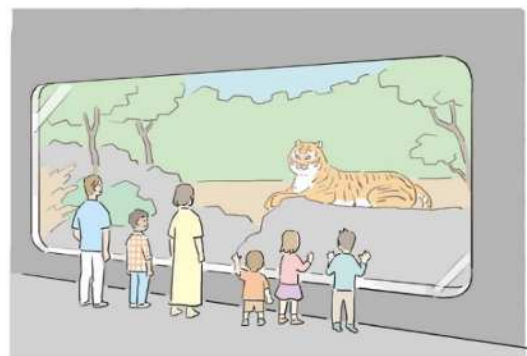
【動物本来の能力や行動を引き出す展示のイメージ】

② 動物たちとの出会いをより印象付ける演出や工夫

複数の動物種を見通せるような「通景」の演出、自然界の生息環境を踏まえた複数の動物種による混合展示の導入、運動場で活発に活動する動物を広く見渡せる観察場所や動物を間近に観察できる場所の整備等、動物との出会いを様々に楽しめる演出や工夫を行います。



【複数の動物種を見通せるような「通景」のイメージ】



【動物を間近に観察できる場所のイメージ】

3 施設の整備方針

(1) 飼育展示関連施設

1) 種の保存や動物福祉の視点に立った施設整備

まもる

種の保存や動物福祉の観点から、動物ファーストの視点に立ち、動物がいきいきとその動物らしく暮らせ、肉体的・精神的により健康で心地よく過ごすことができるよう、飼育環境を整え、飼育方法を工夫し、獣医療の充実等を行っていきます。

① 動物ファーストの獣舎整備

JAZAの「適正施設ガイドライン」をはじめとする国内外のガイドラインに基づく飼育基準等（飼育面積等）を参考とした獣舎や運動場を整備します。特に、アジアゾウやキリンをはじめ、種の保存に取り組む動物種については、ガイドラインに基づく飼育基準を満たしつつ、ゆとりのある寝室面積を確保し、円滑に繁殖を進めることができるスペース等を獣舎に整備します。また、温度管理が重要な動物種については、屋内展示場の整備も検討していきます。

【適正施設ガイドライン（JAZA）に基づく飼育基準の例】

動物種	飼育面積		その他
	屋外	屋内	
アジアゾウ	1頭：500㎡以上	雄1頭又は母子：56㎡以上、雌1頭：37㎡以上	プール：100㎡以上等
キリン	1200㎡以上	1頭：25㎡以上	天井高：6.5m以上等

② 動物ファーストに向けた飼育環境の改善や飼育方法

動物達の暮らしを豊かで充実したものにする環境エンリッチメントに資する整備や、安全でストレスを与えない健康管理を円滑に行うためのハズバンドリートレーニングに取り組みやすい獣舎設備の充実、繁殖兆候や出産状況の把握・動物行動等の分析を行うための監視カメラ、飼育管理に必要な体重計等の設備の充実を図ります。

また、一日でもっとも過ごす時間が長い寝室で、快適に暮らせる環境の充実や、高齢動物の介護等、個別管理が必要な個体にも対応できる獣舎環境の向上を図ります。獣舎や運動場等の内外には、動物の生息環境に生育する植物に類似した樹種等を選定し、生息環境を再現した空間づくりを進めます。

③ 動物の健康を守る管理機能の充実

動物の健康管理の強化等を図るため、動物病院の他、人工哺育室や一時入院舎、検疫に必要な施設や飼料倉庫（冷蔵・冷凍機能付）等の管理機能を有する管理棟を新たに整備します。

2) 安全に学べて楽しい観覧環境

まなぶ

たのしむ

来園者が快適に観覧できるよう立地環境を十分活用し、ストレスのない観覧環境を整備します。
また、来園者・動物双方にとって安全性の高い施設整備を進めます。

① ストレスなく楽しく移動するために

観覧通路は、各ゾーン間を結ぶ「主動線」とゾーン内をめぐる「副動線」による構成を基本とし、一筆書きで全てのゾーンを巡ることができるような推奨ルートの設定に取り組みます。

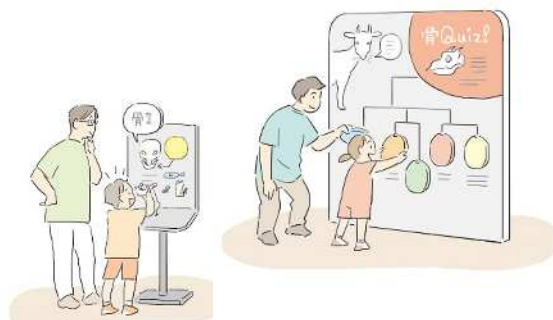
園内全体が、南側が低く北側が高い傾斜地であることを踏まえ、ユニバーサルデザインや楽しく安全に歩行できること等を考慮し、できるだけ自然になじみやすい動線とします。

また、ミスト設備や舗装材の工夫による異常高温対策等、猛暑や雨天時利用も想定したベンチや休憩スペースを適切に配置するとともに、歩きながら子どもたちが楽しく学べる仕掛け（動物にまつわるクイズ等）、ゾーンごとの特性の演出等、楽しく快適な歩行環境を提供します。

更には、高低差のある王子公園・動物園の現状を踏まえ、新たなモビリティ技術の進展も踏まえつつ、人にやさしい移動手段の確保に向けて、継続的に検討を進めます。



【直線を回避した自然になじみやすい園路のイメージ】



【子どもたちが歩きながら楽しく学べる仕掛けのイメージ】

② 管理動線との分離

管理車両の通行が想定される管理動線やバックヤードは、観覧通路と極力交わることがないように、王子動物園の外周部から各ゾーンにアプローチする構成を基本とします。

③ ユニバーサルデザインに配慮したトイレ等の配置

高齢者や身体障害者、乳幼児を含む親子連れが利用しやすい多機能型のブースを兼ね備えた「ユニバーサルトイレ」を観覧ルートの適切な位置に整備します。

④ 人や動物の安全性を確保した施設整備

飼育動物の脱出、豪雨や台風等の気象災害、動物由来感染症等により来園者の安全性が損なわれないよう、また気象災害や飼育管理上に伴う事故、鳥インフルエンザ等の感染症による飼育動物への被害が発生しない施設整備を行います。

(2) 来園者の利便性を高める施設整備

1) 新たなゲートの整備

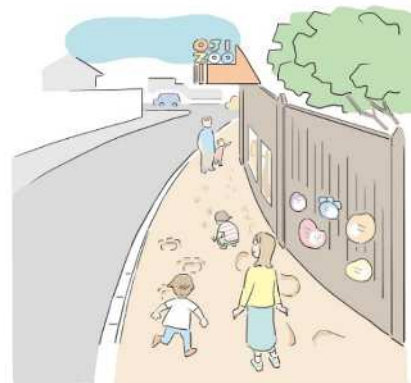
たのしむ

来園者の期待感を高めるデザインとするとともに、効果的な情報発信も担う空間とします。また、王子公園全体が灘文化軸の新たな拠点として機能するよう、王子動物園に隣接する、芝生広場・便利施設等を備えた「緑の広場」や桜並木の「シンボルプロムナード」との一体感あるものに整備します。

① ゲートやアプローチ道路における期待感の演出

六甲の自然や動物たちが棲む世界に誘う新たなゲートを創出します。

また、メインゲート付近に、動物園内外から利用できる飲食物販施設を配置するとともに、駐車場からゲートに至るシンボルプロムナードや、阪急王子公園駅やJR 灘駅から王子動物園に至るアプローチ道路と一体的に、動物と出会う楽しさを感じられ、来園者の期待感を高める演出を行います。



【来園者の期待感を高めるアプローチ道路等での演出のイメージ】

② スムーズなゲート運営

デジタル技術の活用により、入園チケットの事前購入等、王子動物園への円滑な入場を促すとともに感染症予防も考慮した新たな入園システムを構築・導入します。また、利便性向上を図るため、コインロッカー、ベビーカーや車椅子貸出、救護室、スタッフ詰所等を整備します。

ゲート付近には、来園者への案内や利用マナー、動物の解説方法等について、デジタルサイネージや二次元バーコード等も活用して多言語で情報発信できる仕組みを導入し、海外からお越しいただいた来場者も含めて、スムーズに安心して王子動物園を楽しむことができるよう整備します。



【スムーズに入入りができるゲートのイメージ】

③ 駐車場にアクセスしやすい出口機能の付加

来園者の利便性向上を図るため、駐車場にアクセスしやすくなるように、北側にも出口（再入場を可能とする機能も考慮）を整備します。

2) 動物科学資料館のリニューアル

まもる

まなぶ

ふかめる

たのしむ

はぐくむ

動物科学資料館は、剥製や骨格標本をはじめとする数多くの収蔵物やホール、収蔵図書等を備える重要な施設であるため、王子動物園における教育や学びの拠点としてさらなる発展を目指したリニューアルを行います。

① 展示コンテンツのリニューアル

社会情勢の変化や技術革新に対応して、仮想現実「VR」や拡張現実「AR」等最新のデジタル技術の活用等により、動物を取り巻く生態系や地球環境等の仕組みを気軽に映像等で体感できる展示内容に更新します。

貴重な資料である剥製や骨格標本を保存するスペースも重要であるため、展示機能を備えた収蔵庫や、腐敗せず触れることができる新技術等を導入する等、収蔵物の効率的活用を図るとともに、他の博物館等と連携しながら標本の管理を行います。また、標本を活かした体験プログラムや大学と連携した研究等を展開し、学びを深める空間を創出します。



【既存の収蔵物や最新のデジタル技術等を活用した展示コンテンツのリニューアルイメージ】

② 休憩機能とあわせた図書の閲覧機能の向上

気軽に休憩しながら、図書の閲覧やイベント等ができる場を整えることにより、これまで以上に多くの方に動物や生物多様性等に関する情報を入手できる場を設けます。



【気軽に休憩しながら、図書の閲覧やイベント等ができる場のイメージ】

③ 動物保全活動等に寄与するワーキングスペースの確保

動物ボランティアや自然保護に資する団体、様々な芸術家等が行う活動発表の場となり、また様々な立場の方が地域の生物や自然、環境等の情報交流により、活動を広げていくことができるワーキングスペース等の空間を確保します。



【情報交流や活動を広げるワーキングスペースのイメージ】

3) レクリエーション機能の再配置 たのしむ

動物福祉への対応を前提とした王子動物園のゾーニング等を踏まえ、安全で安心な遊び場や休憩広場等からなるレクリエーション機能の再配置を行います。

① さまざまな広場機能の再配置

王子動物園のゾーニングや想定される利用形態等を踏まえ、様々な広場機能を再配置します。

「エントランス広場」：団体利用に際し集合離散・集合写真撮影、イベント等の空間

「憩いの広場」：ピクニックシートを広げ思い思いにくつろぐ等、癒しを楽しむ空間

「学びの広場」：動物科学資料館付近に位置し、動物の命のぬくもりを体験できる空間

「遊びの広場」：動物や自然を身近に感じながら遊べるレクリエーション機能を有した空間

「賑わい広場」：低年齢層の子どもも安心して遊べるレクリエーション機能を有した空間

② 動物や自然をより身近に感じることができる安全で安心な遊び場の整備

王子動物園の遊園地は、開園当初から動物園と一体に整備され、現在も多くの人々に親しまれています。しかしながら、施設の老朽化への対応が必要であるとともに、動物園としての役割等を踏まえた新たなレクリエーション機能へと転換する必要性が高まっています。

王子動物園のランドマークとして親しまれてきた既存の「観覧車」については、老朽化への対応を図りつつ、当面の間存続させるとともに、様々な年齢層の子どもたちが楽しめ、かつ動物や自然をより身近に感じることができる安全で安心なレクリエーション機能を「遊びの広場」や「賑わい広場」に再配置します。



【動物を身近に感じることができる遊び場のイメージ】



【自然をより体感できるような遊び場のイメージ】



【低年齢層が安心して体を動せる遊び場のイメージ】

4 王子動物園が目指すべき方向性と具体的な取り組みの方針

(1) 種の保存など、生物多様性保全に貢献する動物園

まもる

コレクションプランに基づき、希少な種の繁殖に取り組むとともに、大学等の研究機関、自然保護団体等とも連携し、野生動物の保護繁殖と生息環境の保全に貢献する取り組みを推進します。

1) 動物の命をつなぐ

① 質の高い獣医療の提供

多様な動物種に高水準の獣医療を提供するとともに、病態解明や診断、治療に関する臨床研究の積極的な取り組みにより、種の保存や動物福祉の向上に貢献します。



【獣医療設備の充実の例】

<これまでの取り組み>

獣医療設備を随時更新しながら、各動物種に対し適切な検査・治療を実施しています。また、世界的に治療例の少ない動物種については、各種データ（採血部位、採血方法、検査記録、麻酔記録）を蓄積・活用しながら、より精度の高い獣医療の提供を目指しています。

② 域内保全

近年、里山の手入れ不足や外来種の侵入、開発等により、在来種の生息数が減少する等、生物多様性が失われつつあり、「KOBE 里山 SDGs 戦略」により神戸市域の生物多様性保全の取り組みが進められています。王子動物園においては、神戸市域の傷病鳥獣を治療し生息地に復帰させる取り組みを行っていますが、「KOBE 里山 SDGs 戦略」とも連携しながら、希少動物の保全を目指した飼育展示を行うことにより、里山の豊かな自然を守り、人間社会と動物との共生に関する理解を深める取り組みを進めていきます。

また、関係機関や大学等の研究機関、自然保護団体等とも連携しながら、希少動物の生息調査や保全活動に取り組むとともに、国内外の野生動物の生息地で行われている保全活動への協力、フェアトレード等に取り組み、域内保全に貢献していきます。

メモ

※フェアトレードの事例【ツシマヤマネコ米】

絶滅危惧種のツシマヤマネコのエサとなる生物（カエルやネズミ、鳥など）が生息する田んぼを守る活動に貢献できる商品。この商品を購入することで、購入費用の一部を活動費に充当しています。

③ 域外保全

生物多様性保全に貢献しながら飼育を維持できるよう、JAZA が取り組む繁殖計画に協力を行い、国内外の動物園・水族館とも連携しながら、王子動物園のコレクションプランに基づいた繁殖計画を推進していきます。また、これまで培ってきた飼育繁殖技術を活かし、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」に基づく国内希少野生動物種の繁殖の促進を図る事業等と連携した保全活動に取り組むとともに、認定希少種保全動植物園制度の認定を目指します。

<これまでの取り組み>

王子動物園では将来的な野生個体群の絶滅を防ぐため、遺伝的な多様性を維持しながら、飼育している動物の繁殖に取り組んでおり、中国と協力し取り組んだキンシコウの「日中共同飼育繁殖研究」では、中国国外において世界で初めて繁殖に成功し、その子どもを中国へ里帰りさせる等、多くの希少動物の繁殖に成功しています。

- ・アムールヒョウ
- ・アジアゾウ
- ・ボルネオオランウータン
- ・シロテテナガザル
- ・キリン
- ・フラミンゴ
- 等

2) 動物福祉の向上

① 環境エンリッチメントの充実

環境エンリッチメントに取り組む種を増やすとともに、屠体^{とたい}給餌^{きゅうじ}（獣害問題や駆除されたシカ等の命を無駄にしない取り組み）等、動物福祉に資する様々な取り組みに対応できる環境を整備していきます。



【環境エンリッチメントの例】

<これまでの取り組み>

動物たちが豊かで充実した日々を過ごせるよう、野生に近い採餌環境等の再現により、野生本来の行動を増やすことができるよう取り組んでいます。

- ・アジアゾウ
- ・キリン
- ・ジャイアントパンダ
- ・ボルネオオランウータン
- ・ツキノワグマ
- 等

② ハズバンドリートレーニングの推進

動物にストレスを与えることなく健康管理や治療を円滑に行えるようにするため、安全面を考慮しながらハズバンドリートレーニングが可能な種を増やしていきます。



【ハズバンドリートレーニングの例】

<これまでの取り組み>

様々な動物を健康的に飼育していくため、動物の体に負担なく各種検査（血液採取、レントゲン撮影等）ができる体勢をとってもらうトレーニングを行いながら、体調の把握や治療、動物とのコミュニケーションを行っています。

- ・アジアゾウ
- ・ジャイアントパンダ
- ・カリフォルニアアシカ
- ・キリン
- ・ボルネオオランウータン
- ・ツキノワグマ
- 等

(2) 動物を通して自然や環境への扉をひらく教育の推進 まなぶ

動物や展示サイン、教育プログラムを通じ、「命の大切さ」や「生物多様性保全に対する理解」が深まる教育を推進していきます。

① 展示動物の生息環境や特性、命の尊さなどを伝える展示機能の充実

獣舎の整備にあわせて、獣舎構造物の壁面、観覧通路等を有効活用して、各ゾーンの雰囲気演出する壁画や動物の大きさを体感できる原寸大の動物オブジェ等、来園者が楽しみながら学べる仕掛けづくりに取り組みます。この他、展示動物の名称・分類・分布や特性、動物を取り巻く現状等について分かり易く学べる展示を導入します。また、亡くなった動物に感謝や命の大切さ伝えることができるモニュメントを整備するとともに、亡くなった動物を剥製等の標本として活用できるようにしていきます。

<これまでの取り組み>

展示動物の名称・分類・分布・特長等の解説看板を設置し、動物科学資料館では常設展や特設展により主に動物の生態に関する学びの情報発信に努めています。

- ・ 獣舎前の解説看板
- ・ 動物科学資料館での常設展や特設展 等

② 教育プログラムの充実

動物の命の大切さや環境問題について楽しく学べるよう、遠足や家族でも学べるセルフガイド式のプログラムや専用アプリの開発の他、飼育員や獣医師等によるガイドの機会を充実します。

また、自然保護団体等と連携した園外での自然観察会や参加型の調査活動の他、動物とのふれあいを通じた学びの機会や環境負荷低減を促進する再生可能エネルギーの活用、商品の導入・廃棄物削減等の活動を通じた環境教育等、新たな教育プログラムにも取り組み、来園者が動物や自然環境への興味・関心を持ち、より理解が深まる学習機会を提供していきます。



【教育プログラムの例】

<これまでの取り組み>

飼育動物のガイドや餌やり体験、飼育体験等を通じ、動物の魅力や生態、環境保全問題等に関する解説を行っています。

- ・ 餌やりタイム
- ・ 獣医、飼育員等によるツアーガイド
- ・ ボランティアによる動物ポイントガイド
- ・ モルモット等のふれあい体験 等

③ 学校教育との連携

これまでの活動を継続していく他、学校のニーズを把握し、学校教育に向けた動物に関する講演、出張講座の実施、デジタルを活用した教育素材の提供等を行っています。



【教育事業との連携】

<これまでの取り組み>

教育支援事業を年間約 100 件以上開催（令和 3 年度実績）してきた他、小学生向けサマースクール、成人向けの「大人のための動物園講座」等を開催しています。

(3) 希少動物の保全や動物福祉の向上に資する調査・研究の推進

ふかめる

専門性の高い大学等研究機関と連携した調査・研究の場とし、動物の生態の理解を深め、将来にわたり動物の飼育・繁殖・福祉の発展に貢献します。王子動物園自体が研究フィールドとなるような環境整備をはじめ、人材育成や研究機関等との連携をより推進し、研究分野の向上を図ります。

1) 次の時代につなげる（研究分野の拡大）

王子動物園自体を研究フィールドとするため、調査研究に適した獣舎整備をはじめ、飼育員や大学等の研究機関・自然保護団体等の交流の場、動物科学資料館を研究成果の発表・閲覧の場とする等、調査研究を推進する体制の構築を図ります。

また、種の保存の推進の観点から人工繁殖技術や生殖細胞凍結保存技術等の向上を目指した共同研究等に取り組むとともに、動物福祉の向上の観点から高度獣医療の整備や、動物行動学、動物心理学等の分野の研究者と連携して研究に取り組みます。

これらの研究から得られた知見や成果を幅広く共有することにより、飼育環境の改善や教育事業へフィードバックし、希少動物の保全や動物福祉の向上に貢献します。



【研究を行いやすい環境整備のイメージ】

<これまでの取り組み>

大学等の研究機関と、動物の繁殖や、生態の解明、健康管理等に関する主な共同研究

神戸大学	学術協定に基づき、オランウータン、ニシゴリラ、アムールトラ、ホッキョクグマ、コアラ、ユキヒョウ、ジャイアントパンダ等の繁殖研究
大阪公立大学	連携協定に基づき、ジャイアントパンダ、アカカンガルー等の高度獣医療による疾病治療
京都大学	アジアゾウのホルモン分析・年齢推定、ユキヒョウのホルモン分析・行動調査・血縁解析、霊長類の生態に関する研究、様々な動物の性別判定・遺伝子解析等
岐阜大学	キリン、ホッキョクグマ、シロサイ、コアラ、アジアゾウ、アムールヒョウ等の繁殖研究
その他	コアラの感染症・遺伝子分析、鳥類のマラリア等の疾病の研究、ネコ科動物のマタビ反応の研究等 等多数

2) 次の世代を育てる（人材育成への貢献）

① 職員の専門性向上

種の保存や動物の健康管理、動物福祉の向上に向けて職員の専門性を更に高めていくため、日頃の業務で培った飼育技術や獣医療技術等を職員相互に共有し、スキルの継承を円滑に行える職場環境や体制づくりとともに、専門性を高めることを目的とした各種研修等の積極的な受講等、人材育成システムの構築を進めます。

② 次世代の育成

教育機関と連携し、学生たちに飼育や研究を通して得られた動物の生態等の知見を広く発信する他、学校教育で取り組む生物多様性保全に関わる研究発表等に協力支援する等、次世代の生物多様性保全を担う人材育成に寄与します。

(4) 誰もが安全に安心して楽しめる憩いの場の創出 たのしみ

広い園内で、来園者が安全に安心して動物園を楽しめる環境を創出するとともに、王子公園全体の計画を踏まえながら、六甲の緑豊かな自然を背景とした景観資源として適切に管理活用し、緑豊かな景観づくりに取り組みます。

① 園内樹木の適切な管理と魅力的な景観形成

既存の樹木等を見据えつつ、緑陰の確保やゾーンごとの演出に配慮した樹種の選定、園内の桜の高齢化への対応等、必要に応じて更新するとともに、六甲山の緑と調和した美しさを感じられるような景観づくりに取り組みます。

さらに、良好な眺望を活かした撮影スポットを設ける等、王子動物園・王子公園に来園した思い出づくりや魅力発信の場づくりを行います。



【緑豊かな景観】



【夜桜通り抜けの様子】

② のんびり動物園を楽しむ

動物園をゆっくり楽しんでもらうために、楽しくお弁当を広げたり体を休めたりすることができるゆとりある休憩広場や、イベントやキッチンカー等のサービス提供に応じた設備の整備等、既存施設も適切に活用しながら、来園者にとって居心地のよい広場空間を提供します。

また、王子動物園や緑の広場等への来場者が一緒に楽しむことができる飲食・物販施設等、魅力的な賑わい機能をゲート近辺に一体的に整備します。王子動物園内においても、食事を楽しむ、軽食等で休憩し、お土産の探索等で楽しめるように、飲食・物販施設や自動販売機を配置するとともに、繁忙日にはキッチンカー等を導入し、快適性や利便性を高めます。

③ イベント等情報が入手しやすい環境づくり

施設内において来園者の視線を集めやすい場所にわかりやすい表現を用いたインフォメーションや専用アプリを導入することで、誰もが手軽にイベント情報やマナー等の関連情報が得られるよう、積極的に発信していきます。

④ 灘文化軸にふさわしいデザイン

獣舎施設や案内サイン等は、動物種・ゾーンごとの生息環境の創出を考慮しつつ、動物園全体で統一性を図るとともに、動物をモチーフとしたデザイン等、園全体の魅力向上に寄与できるデザインとします。

また、アート作家の作品を園内に展示する企画を近隣の美術館等と連携して実施する等、灘文化軸の拠点にふさわしい空間づくりを目指します。

(5) 市民・地域・来園者と共に歩み行動する動物園

はぐむ

市民や関連団体、企業等と一体となって、王子動物園を守り育てる仕組みを強化します。また、地域と連携した取り組みを通し、魅力ある地域づくりや地域における人材育成にも繋がります。

① 王子動物園をともに育む基盤づくり

王子動物園をともに育む方々を増やしていくため、動物園のイベント情報にアクセスしやすく情報が得られやすいアプリの開発等の構築や窓口機能の充実を図り、王子動物園を訪れるきっかけづくりを増やします。

また、各種企業等とコラボレーションし、思わず手に入れたくなる王子動物園でしか買えないオリジナルグッズや野生動物の生息環境への負荷の低減を図るフェアトレード商品の提供をはじめ、環境保全に資するイベント企画を展開する等、新たなイノベーションを創出し、HP や SNS での情報発信（X（旧 Twitter）や YouTube チャンネル）、各種マスメディア等を活用して幅広く PR することで、新規来園者やリピーターを増やしていきます。

② 王子動物園をともに育む仕組みの強化

市民や関連団体・企業等による動物サポーター制度のサービスの充実による一層の来園者拡大、クラウドファンディング等多様な寄付・支援制度の導入により、動物の飼料費、獣舎の改修費等を募る制度を充実させ、ファンと共に王子動物園を守り育てる仕組みづくりを進めます。

また、市民や関連団体、地域の学校、企業等がボランティアや地域活動、CSR 活動の一環として、王子動物園の運営に参画し、イベントやガイド、清掃をはじめ、植樹や展示サイン制作等、多様な活動に広く関わっていただける体制づくりを推進します。また、そのような活動を行う拠点としての動物科学資料館の活用を進めます。

<これまでの取り組み>

動物サポーター制度により、企業・団体・個人の方から寄付をいただき、動物たちの餌代や獣舎の整備等の運営費用に充当しています。また、動物ガイドやイベント補助等の活動を行うボランティア制度も運用しています。

③ 地域の活性化

灘文化軸を構成する様々な美術館や地域の学校、商店街等との協働により、回遊性やにぎわいを高め、まち全体の活性化に貢献する取り組みを推進します。

また、地域団体や地元の商店街、企業と連携して動物園の資源を活かしたイベントの実施やグッズ、飲食店のメニュー開発等に取り組むとともに、他の動物園・水族館とも連携しながら、地域全体としての魅力を発掘、展開できる情報発信を進めていきます。

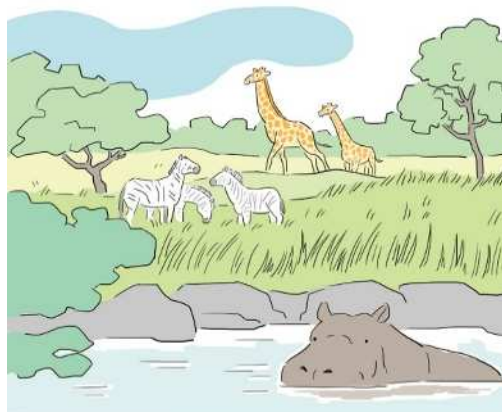
5 工程計画

王子動物園のリニューアル事業は、通常営業を行いながらのリニューアルとなるため、来園者の安全を確保しながら、動物への影響を最小限にできるよう、空き獣舎やスペースの有効活用等、様々な手法をとりながら進めていきます。

早期整備を目指す第1フェーズを確実に進めていくとともに、第2フェーズ以降については、飼育動物の状況や負担の少ない動物移動を見据えながら整備手順を検討します。

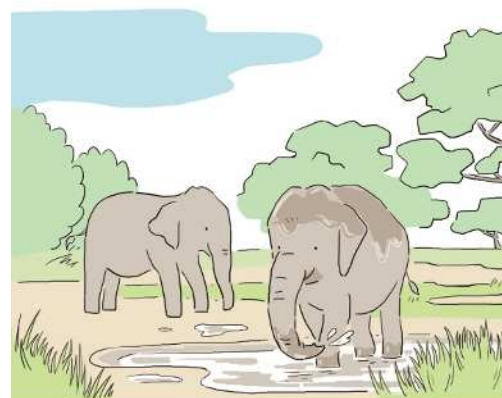
① 第1フェーズ

サバンナゾーンでは、アフリカのサバンナに生息するキリンやシマウマ、カバ等の複数の動物種を見通せる「通景」の演出や生息環境を再現し、生態系が多くの動植物のバランスの中で成り立っていることを体感できるゾーンとして整備し、動物との出会いを楽しめ、生態や暮らしの様子を観察できる展示方法を目指します。



【サバンナゾーンのイメージ】

アジアゾーンでは、アジアゾウの生息環境を再現する等、動物本来の能力や行動を引き出す工夫を行うとともに、ガイドラインに基づく飼育基準を満たしたゆとりのある空間を創出することを目指します。

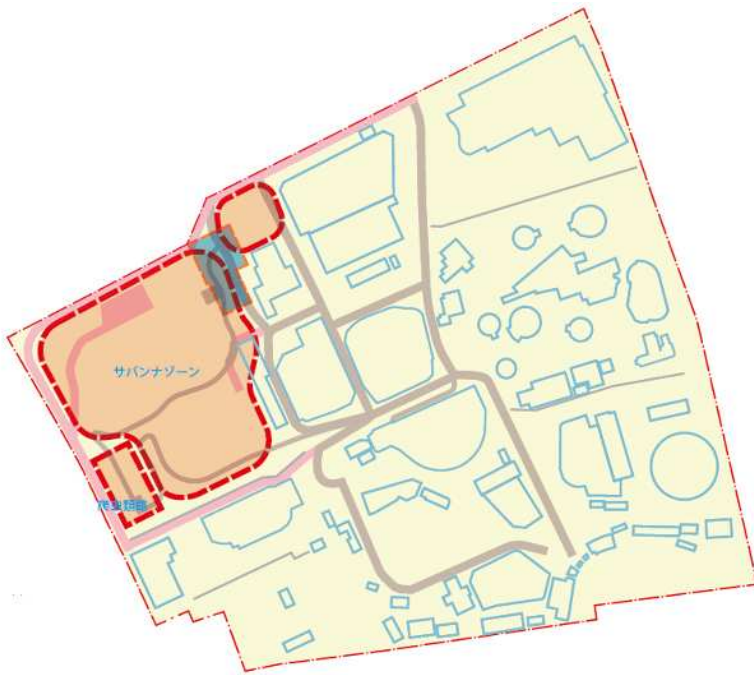


【アジアゾーン（アジアゾウ）のイメージ】

爬虫類館では、熱帯のジャングル、サバンナ等に生息する爬虫類の生息環境を再現し、生態系が多くの動植物のバランスの中で成り立っていることを体感できる施設として新たに整備していきます。

その他、動物管理の中核となる管理事務所や動物病院の整備、新たな王子動物園の顔となるメインゲートを整備していきます。

i) サバンナゾーン・爬虫類館・広場の整備



凡例

- 撤去施設
- 既存施設
- 賑わい・休憩広場
- 観覧園路 (一部管理兼用)
- 管理専用園路

ii) メインゲート・管理事務所・動物病院の整備



iii) アジアゾーン (一部) の整備



② 第2フェーズ以降の整備手順

オーストラリアゾーン・広場の整備



世界のネコ科ゾーンの整備



神戸の森～日本の自然ゾーン・動物科学資料館



凡例

- 撤去施設
- 既存施設
- 賑わい・休憩広場
- 観覧園路 (一部管理兼用)
- 管理専用園路

広場・南米ゾーン・霊長類ゾーンの整備



アジアゾーン (残りの獣舎) の整備



6 実現に向けて

本計画に基づくリニューアルについては、2045（令和27）年度を最終目標とし、総事業費は、約140億円を想定しています。

リニューアルにあたっては、開園しながら工事を進める予定であるため、工事に伴う騒音や照明、動物移動が飼育動物に極力影響が及ばない整備手順を検討するとともに、獣舎整備に伴う飼育動物の退避スペース（仮設獣舎）についても、動物福祉の観点も踏まえながら、空き獣舎や空きスペースの有効活用等で確保していきます。

なお、本計画は、飼育動物の状況や社会情勢の変化等に対応し、必要に応じて計画を見直しながら進めていきます。

年度 ゾーン	2024 (令和6年)	2025 (令和7年)	2026 (令和8年)	2027 (令和9年)	2028 (令和10年)	2029 (令和11年)	2030 (令和12年)	2031 (令和13年)	～	目標年度 2045
動物園	第1フェーズ 工事 i) サバンナゾーン・爬虫類館 ii) メインゲート管理事務所・動物病院 iii) アジアゾーン（一部）							第2フェーズ以降 順次、整備		
	概算事業費	約70億円						約70億円		

計画概成